

新潟大学 倫理審査委員会 オプトアウト書式

①研究課題名	人工知能を用いた、タウオパチーの細胞内蓄積系譜の解明と、細胞間伝播の検証
②対象者及び対象期間、過去の研究課題名と研究責任者	
<p>本学及び関連病院において、試料提供者の親族から同意を得て新潟大学脳研究所病理学分野の教室員が行った病理解剖例で、病理診断されたタウオパチーの患者さんの症例を検索対象とします。研究の対象は、病理解剖時にご遺族からの研究利用の承諾をいただいた患者さんに限ります。</p> <p>【選択基準】</p> <p>1990 年以降現在までに新潟大学脳研究所病理学分野で病理解剖により進行性核上性麻痺または大脳皮質基底核変性症と診断され、脳組織の研究利用の承諾をいただいている患者さんが対象です。</p>	
③概要	
<p>脳などの中枢神経系に異常タウ蛋白が蓄積する病気である、タウオパチーの病理組織について、人工知能(AI)を用いて、画像解析を行います。これらの解析により、本疾患の病態が詳しくわかることで、将来的な治療標的が見いだされる可能性があります。</p> <p>対象となるご遺族様におかれましては、本研究にぜひともご協力いただきたくお願い申し上げます。なお、承諾されないという場合は、下記「お問い合わせ先」までご連絡ください。承諾されないというご判断は尊重され、ご遺族様が不利益を被ることはございません。</p>	
④申請番号	2026-0030
⑤研究の目的・意義	タウオパチーは手足の動きにくさ、飲み込みの悪さなどの症状を起し、日常生活動作を傷害する疾患です。その病態は未解明な点も多く、治療標的および治療方法もまだ確立されていません。本研究では、脳内で異常を来している範囲や細胞の種類を明らかにすることで、病気の進み方についての手がかりを得て、将来の治療標的となり得る部位について検討します。
⑥研究期間	倫理審査委員会承認日から 2028 年 3 月 31 日まで
⑦情報の利用目的及び利用方法（他の機関へ提供される場合はその方法を含む。）	タウオパチーの病態解明のため、病理解剖にて採取・保存された脳組織を用いて、タウ蛋白の分布や、患者さんごとの違いを調べます。このため、新潟大学病理学分野、脳科学リソース研究部門で保存されている脳組織の顕微鏡画像を利用します。顕微鏡画像を、人工知能(AI)に学習させ、病気を引き起こしていると思われるタウ蛋白の特徴を AI に覚えさせたり、その特徴に合致する細胞を探させたりします。
⑧利用または提供する情報の項目	対象となる患者さんの病理解剖にて採取した脳組織、患者さんの情報（年齢、性別、臨床診断名、罹病期間）
⑨利用する者の範囲	新潟大学脳研究所病理学分野及び新潟大学メディカル AI センター

④ 試料・情報の管理について責任を有する者	新潟大学医歯学総合病院 ゲノム医療部ゲノム情報管理センター 特任助教 永井 貴大
④ お問い合わせ先	本研究に対する同意の拒否や研究に関するご質問等ございましたら下記にご連絡をお願いします。 所属：新潟大学医学部 メディカル AI センター 氏名：永井 貴大 Tel：025-227-0390